

インフォメーション・コーナー

会 告

○農業農村工学サマーセミナー 2021【サマーセミナーから NN 的防災・減災を考える —若手がつながる交流の場を目指して—】参加者募集！（第2報） 9月3, 4日開催……………	72
○農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業についての募集……………	73
○2021年度大会講演会シンポジウム「農業農村工学に関する博士人材のキャリアパス」のご案内……………	74
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付……………	75
○新刊「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 暗渠排水」の発刊……………	75
○2022年度農業農村工学会賞候補の推薦（再） 締切 10月31日……………	76
○2020年度CPD記録の認定申請期限の取扱いについて（2021年度限定措置）……………	77
○技術士の継続的研さんによるキャリア形成が評価される予定です……………	77
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!……………	77
○2022年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日……………	78
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!……………	78
○改定6版 農業農村工学標準用語事典PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内……………	80
○PAWEES2021国際会議のオンライン開催……………	80
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局……………	80
○第72回関東支部大会の開催（第2報） 講演申込締切 9月30日……………	81
○令和3年度（第102回）九州沖縄支部大会の開催（第1報） 参加・講演申込締切 9月24日……………	82
○2021年度計算力学技術者認定試験の開催 9月19日ほか開催……………	82
○2021年度土壌物理学会の開催 10月30日開催……………	83
○第64回粘土科学討論会の開催 9月14～18日開催……………	83
○令和3年度農業農村整備サマーセミナー（第57回）の開催 申込締切 9月10日……………	83
○第24回（2022年）「日本水大賞」の募集 応募締切 10月31日……………	84
農業農村工学会論文集 内容紹介……………	85
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 最新号掲載論文紹介……………	87
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧……………	88
学会記事……………	89

第89巻第9号予定

展望：坊垣昌明

小特集：土地改良区に期待される役割，その支援策と先進的な取組み事例

報文：オーストラリア灌漑事業体の会社化と土地改良区への示唆：木下幸雄

報文：大雪土地改良区における農村DXに向けた取組み：矢挽尚貴ほか

報文：新潟県における農業用ポンプの維持管理に関する実態調査：小林和夫ほか

報文：水利用計画策定事例からみた土地改良区の地域的役割：八百川朋世ほか

報文：農業水利施設を広域的に管理する主体の必要性和政策的課題：荏林幹太郎ほか

技術リポート

北海道支部：風食防止灌水計画の検討：千葉清人ほか

東北支部：前川頭首工の災害復旧と工法：廣谷行治ほか

関東支部：中山間地域における樹園地の圃場整備：一ノ瀬千玄ほか

京都支部：「農業用ため池防災対策プロジェクト」の推進：佐久間俊直

京都支部：ICT技術を活用した生産性向上事例：岡田篤弥ほか

中国四国支部：推進工法における曲線計画事例：板東和典

九州沖縄支部：農道工事における火山灰質粘性土を用いた盛土対策：山口正則

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2021年8月 31日～9月2日	大会運営委員会	2021年度(第70回)農業農村工学会 大会講演会	Ⓟ	Web形態	88巻12号 89巻1, 4, 6号
2021年9月 3～4日	農業農村工学サマーセミナー 2021実行委員会	農業農村工学サマーセミナー 2021	—	Web形態	89巻7, 8号
2021年11月 8～19日	関東支部	第72回支部大会	—	Web形態	89巻5, 8号
2021年11月 11日	九州沖縄支部	令和3年度(第102回)支部大会	Ⓟ	Web形態	89巻8号
2021年11～ 12月(予定)	京都支部	第78回支部研究発表会	—	Web形態	89巻4, 6, 7号
2021年12月～ 2022年1月 (予定)	中国四国支部	第76回講演会・第44回地方講習会	—	Web形態	89巻7号

農業農村工学サマーセミナー 2021【サマーセミナーから NN 的防災・減災を考える —若手がつながる交流の場を目指して—】参加者募集！(第2報)

農業農村工学サマーセミナー実行委員会です。サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度のサマーセミナーは【サマーセミナーから NN 的防災・減災を考える—若手がつながる交流の場を目指して—】をメインテーマに、昨年度に引き続きオンラインによる開催となります。サマーセミナーの参加を通じて、農業農村工学に関わる仲間と交流してみませんか？ 他大学の学生や他機関の研究者と議論をしてみたい方、同じ農業農村工学を学ぶ学生・研究者と交流したい方、まだ研究室に所属していないけれど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どんな方でも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

1. 主催

農業農村工学サマーセミナー 2021 実行委員会

2. 日時

2021年9月3日(金)夕方～4日(土)

3. 対象

学部学生, 大学院生, 若手研究者, 若手社会人

4. 参加費

無料(オンライン開催のため, 通信費等はかかります)

5. 企画内容

1日目 自己紹介・アイスブレイク(簡単なゲーム, 雑談などのレクリエーション)

2日目 グループディスカッション

※内容は一部変更する可能性があります。

ディスカッションテーマ1【災害・防災に対して農業農村工学ができること】

日本は、自然災害が多い国で、毎年多くの自然災害が発生しています。自然災害を発生させる要因である「異常な自然現象」

そのものの発生を防ぐことは難しく、災害による被害を未然に防ぐ「防災」や、災害による被害を減らす「減災」といった考え方が大切です。では、自然災害による被害を防ぎ、人命や財産を守るためにはどのような対策が必要なのでしょうか？ 農業農村工学分野は(水・土・人)が密接に関わる領域であり、自然と密接な関係にあります。ディスカッションパートでは、自然災害や防災・減災のための技術や取組みについて、農業農村工学分野の観点から知識や意見を交わし、議論します。ディスカッションテーマ2【サマーセミナーで動画を作るとしたら？】

近年、動画サービスは若年世代を中心に流行し、動画を投稿・視聴することがより手軽になりました。動画の中には社会のニュースや教養といった、視聴者の好奇心や知識欲を刺激する動画も多く公開されています。しかしながら、農業農村工学にフィーチャーした動画は多くはなく、発展途上であると言えます。若手の興味を惹き、農業農村工学をわかりやすく発信するための「面白い動画」は、どのような動画であると考えますか？ 動画を作成する側として、動画を作成するためのテーマ設定、構成、デザインなどを考えてみましょう！

6. 詳細・参加申込み

サマーセミナーの詳細や、参加申込みフォームは以下のホームページで公開しています。

参加申し込み期間：8月中旬まで(詳しくはホームページで公開予定)

URL：<https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>

7. お問い合わせ

E-mail：n.n.summer.seminar@gmail.com

農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業についての募集

農業農村工学会では、2022年度支給開始〔2021年度修士課程2年〕学生および2023年度支給開始〔2021年度修士課程1年〕学生を対象に、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」についての研究課題を募集します。

以下の募集要領に従って、ふるってご応募ください。応募締切りは、2022年度支給開始〔2021年度修士課程2年〕学生が、2021年9月30日（木）17：00まで、また、2023年度支給開始〔2021年度修士課程1年〕学生が、2022年2月28日（月）17：00までです。

募集要領**1. 趣 旨**

農業農村工学会（以下、「学会」という）は、「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する。」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な課題として、土地改良長期計画（2021年3月23日閣議決定）があります。それを技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」（2021年秋ごろ決定）があり、そこに示される「あるべき農業・農村の姿」に資する重要課題に取り組むことが喫緊の課題となっています。

その一方、大学改革の推進や少子化の影響により、これらの課題に取り組む若い研究者が不足し、人材の確保と育成が学会の喫緊の課題となっています。

そのため、博士課程（後期）に進学し、研究に取り組もうとしている学生の研究課題を支援するため、学会では、（一財）日本水士総合研究所（以下、「水士総研」という）（<http://www.jiid.or.jp/>）の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」（以下、「支援事業」という）を創設し、博士課程（後期）学生への研究課題に対する支援を行います。これにより、農業農村整備技術の向上を図るとともに、関連する人材の確保と育成を目指します。

2. 対象者、募集人員および取り組む研究課題**【2022年度対象者】**

2021年度現在、修士課程2年、博士課程前期2年の学生で博士課程（後期）に進学する者を対象とし、学会の学生会員であることを要件とします。

【2023年度対象者】

2021年度現在、修士課程1年、博士課程前期1年の学生で博士課程（後期）に進学する者を対象とし、学会の学生会員であることを要件とします。

なお、募集時点で学会非会員の学生については、採用後に学

生会員に入会することを要件とします。

募集する研究課題数は、支給開始年度ごとに5課題以内です。

なお、現在博士課程（後期）に在籍している学生や社会人の博士課程（後期）学生は、すでに研究課題を決めて取り組んでおり、この事業の目的である研究課題と一体化することが困難と考え、支援事業の対象者としません。また、日本学術振興会の特別研究員制度の採用者も対象としません。ただし、日本学術振興会の特別研究員制度との併願は可能ですが、重複受給はできません。

他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の応募は可能です。ただし、支援事業に研究課題が採用された場合に、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを、必ず確認してください。

採用後に取り組む研究課題は、2021年3月23日に閣議決定された「土地改良長期計画」（<https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/totikai/attach/pdf/index-13.pdf>）を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」（https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/seibibukai/gijutu_syoinkai/r30203/attach/pdf/siryoku-17.pdf）に資する研究課題とします。

3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後、研究課題に取り組む場合、研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては、学会が、今後別途構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です（<http://www.jsidre.or.jp/>）。

4. 支援事業の規模

支援事業の規模は、1人・1研究課題当たり年間100万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか、研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は、博士課程（後期）の3年間とします。なお、途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合は、支援を中止します。また、留年した場合でも支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。

5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に年度当初までに振り込みます。

6. 選考方法**(1) 書類審査**

申請に必要な書類は次の3種類です。

- ①進学しようとする博士課程（後期）、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書
- ②指導教員（応募時点）の推薦書

③これまでの業績リスト

(2) 面接審査

上記 (1) 書類審査の結果により面接を行います。

(3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、書類審査および面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式 (A4, 2 ページ, 最終年度は, 4 ページ) に沿って, 年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出します。また, 水土総研におけるアソシエイト・アドバイザーとなり, 要請に基づき協力活動を行います。

アソシエイト・アドバイザーの協力活動は, 毎年水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告, 調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換, 「大学生の農業農村体験研修会」における必要に応じての参加, 協力などです。

なお, これらの出席に必要な旅費等は, 水土総研から別途支給します。

8. 研究課題の選考時期

【2022年度対象者】対象は2021年度修士課程2年生となります。

募集期間 2021年8月1日(日)9:00~9月30日(木)
17:00(厳守)

面接 2021年12月上旬

内定 2021年12月末まで

【2023年度対象者】対象は2021年度修士課程1年生となります。

募集期間 2022年1月1日(土)9:00~2月28日(月)
17:00(厳守)

面接 2022年4月

内定 2022年5月上旬

9. 博士課程(後期)修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合, 農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし, これは就職を制限するものではなく, 就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはしません。

10. 申請の方法および提出先

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/career-path/>) より, 申請様式1~3 (Word ファイル) をダウンロードして必要事項を記入の上, E-mail の添付ファイル (各様式の Word ファイルおよび様式1, 2 [署名入りの該当ページ] のPDF) にて「8. 研究課題の選考時期」に示す募集期間内までに下記提出先に提出してください (郵送は受付しません)。

各添付ファイル名には, ご本人の氏名を付記し, 統一したパスワードをお願いします。パスワードは, 別途, メールにてお知らせください。

※申請書類に含まれる個人情報については, 学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し, 本事業の業務遂行のみに利用します。

提出先: 農業農村工学会博士人材支援事業担当あて

E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

11. 問合せ先

(公社)農業農村工学会

事務局長 中 達雄

調査研究部 中村充朗

TEL: 03-3436-3418

E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

2021年度大会講演会シンポジウム「農業農村工学に関する博士人材のキャリアパス」のご案内

研究委員会 博士人材育成制度研究小委員会

農業農村工学会では, 「産官学連携」により, 新たに取り組む人材育成制度をスタートさせました。今年8月1日より博士課程(後期)で取り組む研究課題を募集しています。その内容は, 前記の「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」に掲載しています。この内容をより詳しく紹介し, 意見交換を行う大会講演会シンポジウムを開催します。博士課程の院生が減少し, 農業農村工学の研究者・教育者が育たない危機感から, 農業農村工学に関するキャリア

パスのあり方を議論します。関係分野の人材育成の取組み, 研究支援事業による制度の紹介などを提供し, これから博士課程に進学を検討している学生はもとより, 産官学の関係者と議論を行い, 戦略的な博士人材のキャリアパスを議論するものです。大学教員・学生の皆さんはぜひ参加願います。詳しくは, http://www.jsidre.or.jp/2021taikai_sinpo/ をご覧ください。日時は9月1日(水)11時から12時40分です。

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2021年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭工直などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発
- ③ ①、②以外の分野および学際的・学際的に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
 - ・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
 - ・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など
- ⑦ その他(学会に一任)

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置(一般損金算入限度額+特別損金算入限度額)が受けられます。

新刊「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 暗渠排水」の発刊

平成29年5月に制定された「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 暗渠排水」(農林水産省農村振興局編集)を2021年7月20日に発刊いたしました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 暗渠排水

編集：農林水産省農村振興局

価格：1,980円(税込)

送料：1冊200円(最大600円)

規格：A4判 228ページ

発行日：2021年7月20日

2. 申込方法

I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送りください。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

2022年度農業農村工学会賞候補の推薦（再）

2022年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、 締切は、2021年10月末日です。推薦書様式および授賞規程募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。 は学会ホームページをご参照ください。

2022年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞				
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞	
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績	
賞の対象期間	2016年10月から2021年9月までに発表されたものとする。ただし、その5年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2018年10月から2021年9月までに発表されたものとする。ただし、その3年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2018年10月から2021年9月までに発表されたものとする。ただし、その3年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2020年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2020年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2019年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2016年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。	
受賞候補者	個人			個人または組織、団体				
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。				
賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2011年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2016年10月から2021年9月までにを行った活動とする。	2019年10月から2021年9月までにを行った活動とする。	2016年10月から2021年9月までにを行った活動とする。	2016年10月から2021年9月までにを行ったものとする。	2016年10月から2021年9月までにを行ったものとする。	2019年10月から2021年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。							2021年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2022年度（第71回）農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2021年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

2020年度 CPD 記録の認定申請期限の取扱いについて (2021年度限定措置)

技術者継続教育機構

CPD 記録の認定申請の期限は、昨年までは次年度の8月末日としていましたが、本年4月1日から施行した公益社団法人農業農村工学会技術者継続教育機構業務運営細則の定めにより6月末日となりました。

このことについては、これまでにあらゆる方法で利用者の皆様にお知らせしてきたところですが、新制度運用の初年度に当たり、期限の変更をいまだに承知されていない利用者の存在が危惧されることから、2021年度に限定した措置として、申請期限が徹底されなかった利用者を対象に2020年度のCPD記録の認定申請の機会を下記のように設けることとしました。

記

1. 申請受付期間

2021年8月1日から同年8月31日までの1カ月間

2. 対象者

2021年6月末までに2020年度記録を申請しなかった者

3. 申請方法

技術者継続教育機構 Web システムによる Web 申請に限る

CPD WEB 利用メニュー (<https://kikou.cpd.jsidre.or.jp/>) の画面からパスワードでログインし、実施年度はプルダウンで「2020」を選択し、2020年度記録を申請ください。

4. 認定結果

Web 画面上で2021年10月1日から同年10月31日までの間に確認できます。

5. 問合せ先

公益社団法人農業農村工学会 継続教育部長 花塚賀史

Email : hanatsuka@jsidre.or.jp

技術士の継続的研さんによるキャリア形成が評価される予定です

技術者継続教育機構

文部科学大臣は2021年4月26日、「技術士の資質向上に関する継続研さん活動の実績の管理及び活用について(通知)」を发出し、技術士CPD活動の実績の管理および活用の仕組みの実施主体となることを公益社団法人日本技術士会に通知しました。

日本技術士会では、今後、「技術士CPDガイドライン」を策定して実施主体としての体制を整備するとともに、広く周知

を図ることを予定していますが、当学会ではこれらを見据えて2021年度から新たなCPD制度の運用を開始したところであり、それはガイドライン(案)に掲げられる6つの要件をすべて満足しています。

詳しくはホームページに掲載していますCPDニュースレター第24号(<http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2021/07/cpdnews24.pdf>)をご覧ください。

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例:学会誌8号掲載の問題は9月末日が解答期限)

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2022年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2022年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第90巻（2022年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙一フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254 mm、四つ切りは254×305 mm、同ワイドは254×356 mm、A4は210×297 mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5 MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 2021年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第90巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2022年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、

1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された

方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。

なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 89, 90 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第 89 巻第 9 号	土地改良区に期待される役割, その支援策と先進的な取組み事例 (仮)	終了
10 号	農業農村工学におけるデジタルトランスフォーメーション (仮)	終了
11 号	政策のグリーン化に向けた農業農村整備の新たな展開 (仮)	終了
12 号	新たな土地改良長期計画と新たな農業農村工学の役割と技術 (仮)	終了
第 90 巻第 1 号	第 4 期中期目標における大学の展開方向と農業農村工学 (仮)	公募なし
2 号	—	公募なし
3 号	人材の確保・育成に向けた道・県の取組み最前線 (仮)	公募なし
4 号	持続的低密度社会に、何が必要か—コロナ後、農業農村整備の役割を考える— (仮)	10月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp
※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

第 90 巻第 4 号テーマ「持続的低密度社会に、何が必要か—コロナ後、農業農村整備の役割を考える—」(仮)

令和の時代になってわが国にはかつてない少子高齢化・人口減少の波が押し寄せており、農村部は都市部よりもその影響が顕著になっています。基幹的農業従事者は直近5年間で2割以上減少しており、今後この趨勢が続けば農地の維持はもとより、農村地域は衰退して、食料供給能力は失われていくものと危惧されます。

一方で、新型コロナウイルス感染症を経験した今日、社会経済のあり様や人々の価値観が大きく変換し、テレワークや兼業・副業等の新しいスタイルの働き方や暮らし方が普及して行く中で、農村の持つ価値や魅力が改めて評価されて田園回帰や二地域居住など大都市から地方へ、都市から農村へと向かう新たな人の流れが生まれてきています。

こうした相対するような農村地域のこれからの見通しについて、国では令和2年4月に「新しい農村政策の在り方に関する検討会」と「長期的な土地利用の在り方に関する検討会」を設置して、今後も農村が多面的機能を発揮しながら地域を維持し

次の世代に継承していくための方策についての検討が進められ、令和3年6月には中間とりまとめが発表されました。その中では、地域資源を活用した所得と雇用機会の確保、農村に人が住み続けられるための条件整備、人口減少社会における長期的な土地利用のあり方、農的関係人口の拡大・深化を通じた農村を支える活力の創出などが提言されています。

これらの提言の実現にむけて農業農村整備の果たす役割はますます大きくなるのではないのでしょうか。

このため、小特集では農業農村整備を基盤に老若男女が豊かに暮らす持続的低密度社会の形成について考え、未来を展望することをねらいとします。地域農業の持続性を確保する基盤整備、6次産業化や農泊、農福連携など農業農村のサービス産業化を推進する農業施設の高度利用推進、少ない農業の担い手で効率的に農地を管理するための粗放的管理を導入した最適土地利用計画など、農業農村整備が先導する地域の再生・再編のあり方や新たな方向性などについて報文を広く募集します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員

会あてに、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文 (テンプレート) の各ファイル (Word) を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版の
閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/>) での閲覧サービスを順次開始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記 E-mail にてお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

PAWEES2021 国際会議のオンライン開催

第19回国際水田・水環境工学会(PAWEES)国際会議(PAWEES 台湾大会)は、新型コロナウイルス感染症の世界への蔓延の影響により1年間延期となっておりましたが、この

ほどオンライン方式で2021年10月29日(金)に開催されることになりました。概要につきましては、PAWEESのホームページ (<https://pawees2021.tw/>) をご覧ください。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター(IF)は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)

⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)

⑩ 水田の多目的利用(田畑転換、施設園芸)

⑪ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・ Editors 11カ国から20名

- ・ Editorial Advisors 29名
- ・ Chief Managing Editor
Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
- ・ Managing Editors
Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
Dr. Masayuki FUJIHARA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Dr. Eunmi HONG
School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea
Dr. Toshiaki IIDA
Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan
Dr. Kuo-Wei LIAO
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
Dr. Soji SHINDO
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan
編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)

- ・ Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA
TEL : +82-2-880-4581
FAX : Fax: +82-2-873-2087
E-mail : inhongs@snu.ac.kr
- 投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。
- 投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。
- 投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。
- 発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)
- 購読料 : 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)
学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)
- 非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。
- なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。
- 申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第72回関東支部大会の開催 (第2報)

1. 日 時

支部大会講演会, 講習会 (予定)
発表資料の掲載とチャットによる質疑応答
令和3年11月8日 (月) ~19日 (金)
ライブ日程 (授賞式, 講演ディスカッション等)
令和3年11月12日 (金) 10:00~17:00 (予定)
※第1報より変更になりました。

2. 場 所

オンライン大会 (大会サイト URL は決定次第, 関東支部ホームページ <http://jsidre.or.jp/kanto/> にてご案内します)

3. 参加申込み

今年度はオンライン大会のため, これまでの申込み方法と異なります。詳細は支部ホームページをご確認ください。

(1) 講演会

参加申込締切日 : 令和3年10月31日 (日)

(2) 講演申込み

申込締切日 : 令和3年9月30日 (木)

要旨締切日 : 令和3年10月8日 (金) までにメール添付 (convention@mons-sapporo.co.jp) にて提出

発表スライド : 11月1日 (月) ~7日 (日) に LINC Biz へ各自アップロード

4. 問合せ先

(支部大会全般に関して)
第72回農業農村工学会関東支部大会
栃木県農政部農村振興課技術調整担当
TEL : 028-623-2282 FAX : 028-623-2337
E-mail : nouson-gijutsu@pref.tochigi.lg.jp
(支部大会参加・発表に関して)
第72回農業農村工学会関東支部大会 運営準備室
(株)MONS
TEL : 011-824-8805 FAX : 011-826-4556
E-mail : convention@mons-sapporo.co.jp

5. その他

詳細は関東支部ホームページ, 大会案内サイトに掲載いたします。

新型コロナウイルスの影響により, 内容等の変更が生じる場合があります。

変更は決定次第, 本誌・メールマガジン・学会ホームページ等で案内いたします。

令和3年度(第102回)九州沖縄支部大会の開催(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 開催方法および内容について

令和3年度(第102回)農業農村工学会九州沖縄支部大会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、支部講演会・シンポジウムをオンライン(ライブ方式)で開催いたします。

なお、現地見学会については中止とし、講習会はオンライン開催の実施について検討中です。

2. 開催日 令和3年11月11日(木)

3. プログラム(予定)

(1) 支部講演会およびシンポジウム

オンライン(ライブ方式)による発表とします。

(2) 講習会

オンライン開催の実施について検討中です(今回参加申込みの受付は行いません)。

(3) 情報交換会および現地見学会

本年度は中止とします。

(4) 支部賞授賞式

受賞者は支部ホームページで紹介します。

4. 支部大会参加申込方法

(1) 申込方法

「参加申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめの上、(4)の運営事務局あてE-mailにてお申込みください。参加申込書は、学会九州沖縄支部ホームページ(<http://jsidre.or.jp/kyusyu/>)からダウンロードにより入手してください。

(2) 申込期限 令和3年9月24日(金)

(3) 参加費 無料

(4) 参加申込先・問合せ先

農業農村工学会九州沖縄支部大会運営事務局

宮崎県農政水産部農村計画課技術管理担当

担当: 川内, 瀬戸山

〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東2-10-1

TEL: 0985-26-7165 FAX: 0985-26-7343

E-mail: setoyama-takuya@pref.miyazaki.lg.jp

5. 講演発表者申込方法

(1) 申込方法

学会九州沖縄支部ホームページに掲載している「支部講演会投稿票」に必要事項を記載の上、講演要旨を添えて、(3)の支部事務局あてE-mailにて提出してください。受領確認もE-mailにて行います。

講演要旨については、2枚または4枚とします。詳細は、支部ホームページにて確認してください。

(2) 講演要旨締切日 令和3年9月24日(金)

(3) 講演発表者申込先・問合せ先

農業農村工学会九州沖縄支部事務局

九州大学大学院農学研究院環境農学部門

生産環境科学講座灌漑利水学研究室 谷口智之

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744

九州大学伊都キャンパスウエスト5号館880号室

TEL: 092-802-4611

E-mail: taniguchi@bpes.kyushu-u.ac.jp

6. その他

プログラムおよびシンポジウムの詳細は第2報にてお知らせします。

全国各地から多数の参加をお待ちしております。

2021年度計算力学技術者認定試験の開催

1. 主催 (一社)日本機械学会

協賛 農業農村工学会ほか

2. 試験日程

上級アナリスト認定試験 2021年9月19日(日), 25日(土)

1・2級認定試験 2021年12月9日(木), 10日(金), 16日(木)

3. 問合せ先

(一社)日本機械学会 事業企画グループ

E-mail: caenintei@jsme.or.jp

4. その他

詳細は、日本機械学会 計算力学技術者資格認定事業委員会のホームページ(<https://www.jsme.or.jp/cee/>)をご覧ください。

2021 年度土壌物理学会の開催

1. 主 催 土壌物理学会
協 賛 農業農村工学会ほか
2. 日 時 2021 年 10 月 30 日 (土) 9:00~17:00
3. 会 場 オンライン
4. 参加費用 無料
5. プログラム
第 63 回シンポジウム
「地表面-大気間の物質・エネルギー動態のモデル化-土壌物理学に求められるもの-」
(1) 次世代地球システムモデルに向けた統合陸域シミュレータの開発~土壌物理プロセスに着目して~
芳村 圭 (東京大学生産技術研究所)
(2) 群落熱収支モデルを用いた畑地の蒸発散と土壌水分・熱移動の予測
坂井 勝 (三重大学大学院生物資源学研究所)
(3) 森林における水文循環がメタンガス交換に与える影響
坂部綾香 (京都大学白眉センター)
- (4) 作物成長モデルの高精度化に向けた根群域モデルの役割と課題
辰己賢一 (東京農工大学大学院農学研究院)
- (5) 施肥管理の異なる作物栽培下の土中水分・ガス動態
濱本昌一郎 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
6. 各種申込み期間
発表申込み: 2021 年 9 月 1 日 (水) ~10 月 8 日 (金)
企業展示申込み: 2021 年 9 月 1 日 (水) ~10 月 8 日 (金)
参加申込み: 2021 年 9 月 1 日 (水) ~10 月 20 日 (水)
7. 問合せ先
土壌物理学会事務局 渡辺晋生
(三重大学大学院生物資源学研究所)
E-mail: spmt2021@ml.affrc.go.jp
8. その他
詳細は土壌物理学会大会のホームページ (<https://js-soilphysics.com/conf>) をご覧ください。

第 64 回粘土科学討論会の開催

1. 主 催 (一社)日本粘土学会
後 援 農業農村工学会ほか
2. 日 時 2021 年 9 月 14 日 (火) ~18 日 (土)
3. 会 場 信州大学 長野 (工学) キャンパス
〒380-8553 長野県長野市若里 4-17-1
4. 問合せ先 (一社)日本粘土学会事務局
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
E-mail: clay-post@bunken.co.jp
5. その他
詳細は、第 64 回粘土科学討論会のホームページ (http://www.cssj2.org/event/annual_meeting/) をご覧ください。

令和 3 年度農業農村整備サマーセミナー (第 57 回) の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 全国農村振興技術連盟
後 援 農業農村工学会
2. テーマ 農業農村整備と DX~デジタル技術がもたらす農業・農村の変化~
3. 日 時 2021 年 9 月 28 日 (火) 9:30~15:50
4. 場 所 オンライン開催
(Web 会議システム Zoom Webiner を使用)
5. 参加費 4,000 円
6. 申込締切 2021 年 9 月 10 日 (金)
7. 問合せ先
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
全国農村振興技術連盟
TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176
E-mail: kensyu@n-renmei.jp
8. その他
申込方法等の詳細は令和 3 年度農業農村整備サマーセミナーのホームページ (https://www.n-renmei.jp/training/training01_1.html) をご覧ください。

第24回（2022年）「日本水大賞」の募集

1. 目的

日本水大賞は、21世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環系の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

2. 対象範囲

(1) 対象となる活動分野

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞が授与され、広く公表されます。なお、副賞は受賞活動をさらに継続・発展していただくよう授与されます。

- ①大賞【グランプリ】（賞状・副賞200万円）
- ②大臣賞（賞状・副賞50万円）
- 【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】
- 【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】ほか

4. 選定の方法等

日本水大賞委員会のもとに、上記の賞を選考するために審査部会を設置し、表彰対象となる活動が審査され、最終的には日

本水大賞委員会が決定されます。

5. 募集期間

2021年7月7日（水）～10月31日（日）（郵送の場合は当日消印有効）

6. 応募方法

応募用紙（4枚：ホームページからダウンロードしてください）に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を送付または持参してください。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mailでも応募を受け付けます（メール送信後、必ず確認の電話をしてください）。

応募方法の詳細はホームページを参照してください。

7. 主催等

- (1) 主催 日本水大賞委員会
名誉総裁 秋篠宮皇嗣殿下
委員長 毛利 衛（日本科学未来館館長）
国土交通省

(2) 後援（予定） 農業農村工学会ほか40団体

(3) 協賛（予定）「川の日」実行委員会ほか7団体

8. 送付先・問合せ先

日本水大賞委員会事務局

（公社）日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-5 麹町E.C.Kビル3階

TEL：03-3238-9771 FAX：03-3288-2426

E-mail：taisyo@japanriver.or.jp

担当：塚本（平日9：15～17：30）

ホームページ：http://www.japanriver.or.jp/taisyo/